

# 伊里市

---

伊里市（いさどし）は東北地方の中部、岩手県の内陸南部に位置する、同県最多（東北地方では仙台市に次ぐ）の人口を誇る中核市である。周辺の水沢市、江刺市などを含めた奥州都市圏を形成している。

県庁所在地は盛岡市のため、県では盛岡市を行政都市、伊里市を産業都市と位置付ける傾向がある。政府発表の伊里市開発計画指針によれば、現在の形態における都市としての伊里市の正式な呼称は過疎地域開発環境評価都市である（ただしこの名称は過疎地域という言葉が地域自治体の反発を買い、計画指針に名称が載っているのみで使用されることは少ない）。

## 沿革

---

2006年2月20日 日本政府主導による特定中央地区開発計画地域（略称は特中地区）に胆江地域が水戸地域、宇都宮地域、群馬中央地域などと共に指定され、将来の政令指定都市への指定を目指す開発計画が発表される（ただし胆江地域以外の地域は合併の推進が主な目的であったため、実質的に大規模な再開発計画の核となる地域は胆江地域のみであった）。

2006年4月1日 開発地域に含まれていた金ヶ崎町が計画から離脱することを決定。胆江地域の名称を改め、以降は奥州開発計画地域と記載されるようになった。

2006年8月22日 開発計画の中核都市を水沢市、江刺市、もしくは両市を中心にする案などが議論され、最終的に江刺市の一部が分離され伊里市が設置された。同時に地方自治法の特例として奥州郡が設置されたため、伊里市の正式名称は奥州郡伊里市であり、他の地域自治体も奥州郡水沢市、奥州郡江刺市などとなっている）。この段階ですでに伊里市は特例市として指定されていた（地方自治法の記述によると20万人以上の都市である必要があったが、当時の伊里市の人口は半数の10万人にも満たなかった）。

2006年8月25日 岩手県は、最終的な開発中心地区を伊里市に決定した。伊里市が分離、独立した時点で水沢市などから反発が上がっていたが、政府が地方交付金などの助成をすることで議論は決着する。住民へは「北上川によって水沢・江刺両地域は分断されていて社会インフラの整備が厳しいため」と説明された。

2014年10月5日 鉄道や道路など基本的インフラの整備にめどがついたとして、政府は他地域からの大規模な人口移動を目標とした計画を発表。これによると、2054年度までに伊里市の法定人口を50万人、奥州地域の人口を80万人に増加させるとしている。将来的に奥州都市圏の形成により、伊里市を含めた奥州地域を政令指定都市とする目標が掲げられている。また、人口流入の切り札として、この地域限定の減税および免税措置の法整備

が行われ、さらに巨額の福祉関連予算が投じられるなど伊里市への移住促進が行政主体で現在も継続されている。

現在の伊里市の人口は推計で 30 万人を突破し、県内では盛岡市に続いて中核市に指定された。伊里市を除く奥州地域の人口も 20 万人を超え、仮に伊里市を含んだ奥州都市圏が一つの市として合併すれば政令指定都市としての要件を満たしたことになる。また、伊里市のみを政令指定都市として指定し、その他の地域を特例市もしくは中核市として指定しようとする案も浮上した。

総務省によれば、元々の計画の骨子では、将来過疎による人口減少を食い止める手段の一つとしての行政主導の新たな都市整備計画の第一案としての伊里市であり、今後は他地域にも同じような中核市もしくは政令指定都市の形成することを目標に掲げている。ただし現在は新たな地区設定などの案は浮上しておらず、伊里市が成功例かつ唯一の計画実施地域になるのではないかと有識者から危惧の声があがっている。また、伊里市の行政について岩手県が介入を強めているが、伊里市議会は市独自の条例整備などに強硬な姿勢を見せており、県議会での伊里市に関する派閥の影響力が大きい。一方でこうした新たな勢力の影響を危惧する一部の県議が自党本部に事態の打開を要請し、日本国政府は伊里市への関連予算減額などでの圧力を強めており、さらに岩手県議会を主とした伊里市と国の行政の軋轢が顕著となっている。

都道府県	岩手県
面積	362.50 km <sup>2</sup>
総人口	352,457 人
隣接自治体	北上市、花巻市、遠野市、一関市、 奥州郡：水沢市、江刺市 胆沢郡：金ヶ崎町 気仙郡：住田町
市の木	モミジ
市の花	ソメイヨシノ
鳥	かつこう
行政区分	愛宕区、 <b>江北区</b> 、八百万区、向井区、瀬川区、里川区

\*行政区分に関しては、政令指定都市ではないため、合併特例による地域自治区で構成している。